

## 2025（令和7）年度 国際版画美術館 事業報告書【展覧会版】

展覧会名	日本の版画1200年—受けとめ、交わり、生まれ出る			担当者名	町村悠香・宮崎黎
会期	2025年3月20日（木・祝）～6月15日（日）			開催日数	76日間
協賛・後援・協力	なし				
巡回館	なし				
展覧会概要	日本現存最古の印刷物である無垢淨光大陀羅尼経（むくじょうこうだいだらにきょう）から、仏教版画、絵手本や画譜、浮世絵、創作版画、新版画、戦後版画、現代版画へと連なる約240点を当館収蔵品から厳選して紹介。特に他の東アジアの国々とのつながりにも注目し、文化交流の視点で日本の版画1200年の歴史を紹介した。				
ねらい・対象	2024年に発行された新札の絵柄に葛飾北斎の作品が使われるなど、浮世絵を代表とする日本の版画はナショナルなイメージ結びつきがちだが、浮世絵も西洋や中国の影響を受け生まれたものである。文化交流の視点で当館収蔵品をキュレーションすることで、1200年に及ぶ日本の版画史を新たな切り口から語ることを目指した。				
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数
	記念講演会	5月18日（日）		山口晃氏（画家）	130人
	子どものための鑑賞会	4月16日（水） 5月17日（土）	0歳からの版画美術館！親子で鑑賞&版画あそび	富田めぐみ氏 (NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事)	21人
	子ども講座 —みてみてつくろう—	3月29日（土）	思いをこめて☆版画でふやす『大切なもの』	杉浦幸子 (武藏野美術大学教授) 上村牧子 (普及担当学芸員)	15人
	復刻浮世絵版本木摺り体験 2025	5月24日（土）		渡邊利江 (普及担当学芸員)	20人
	プロムナード・コンサート	6月14日（土）	日本の版画と若き響き	桜美林大学芸術文化学群 玉川大学芸術学部	175人
	ギャラリートーク	①4月5日（土）、 5月17日（土） ②3月23日（日） ③3月30日（日）、 5月3日（土）	①1～3章 仏教版画、浮世絵を中心 ②3～5章 新版画、創作版画を中心 ③5～7章 創作版画、戦後・現代版画 を中心に	①宮崎黎 (担当学芸員) ②滝沢恭司 (新潟市美術館特任館長・ 元担当学芸員) ③町村悠香 (担当学芸員)	181人
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日	
	800円	400円	無料	・初日：3/20 ・開館記念日：4/19 ・シルバーデー（満65歳以上無料）：3/26、4/23、5/28	
観覧者数	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生
	8,624人	3,657人	12,281人	11,149人	802人
	目標値	12,903人			
主な収入	観覧料収入		図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源
	5,658千円		1,493千円	1,223千円	—千円
事業経費	・講師謝礼		45千円		
	・事業協力謝礼		147千円		
	・著作権使用申請委託料		一千円		
	・設置・撤去委託料		720千円		
	・作品額装委託料		697千円		7,315千円
	・広告・宣伝委託料		1,017千円		
	・ポスター等作成委託料		3,501千円		
	・ディスプレイ作成委託料		1,188千円		
	・イベント企画運営委託料		一千円		
主な広報・取材等	【テレビ】「日曜美術館 アートシーン」（NHK Eテレ）他 【新聞・雑誌】『女性自身』、『江戸楽』、『散歩の達人』、『月刊美術』、『BM (BIJUTSU NO MORI)』、 『新美術新聞』、『日本教育新聞』、『東京新聞』他 【ウェブ】「美術展ナビ」、「美術手帖」、「Fashion Press」、「IM (インターネットミュージアム)」他				

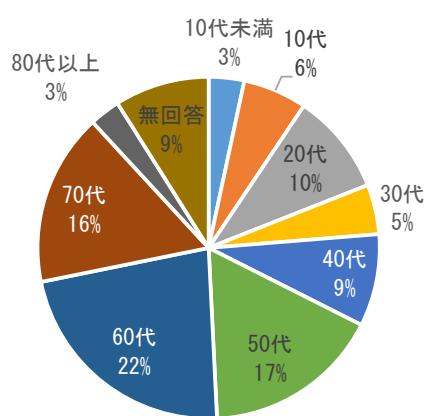


## 2025（令和7）年度 国際版画美術館 アンケート集計結果【日本の版画1200年】

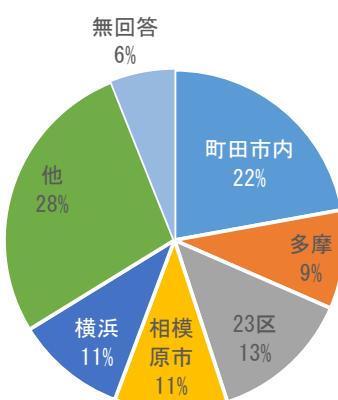
開催期間：2025年3月20日（木）～6月15日（日）

回答者数：447人（総入館者数：12,281人 アンケート回収率：5.8%）

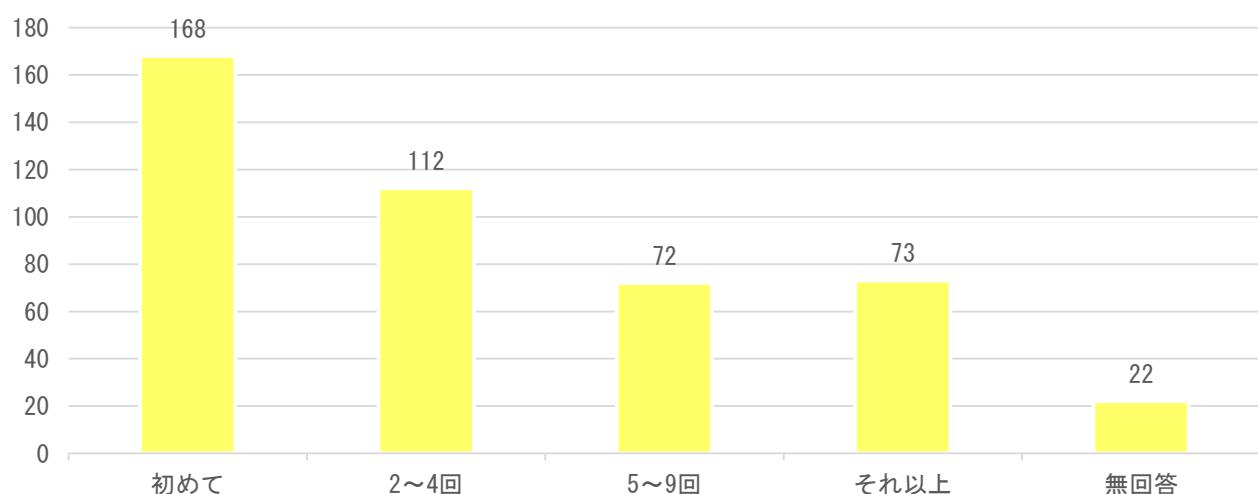
## 1. 年齢層



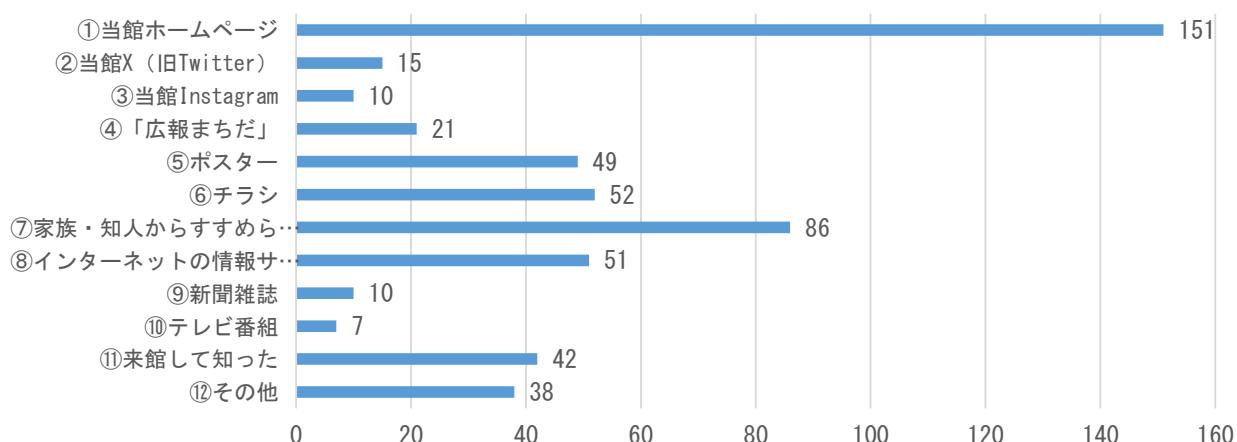
## 2. 住まい



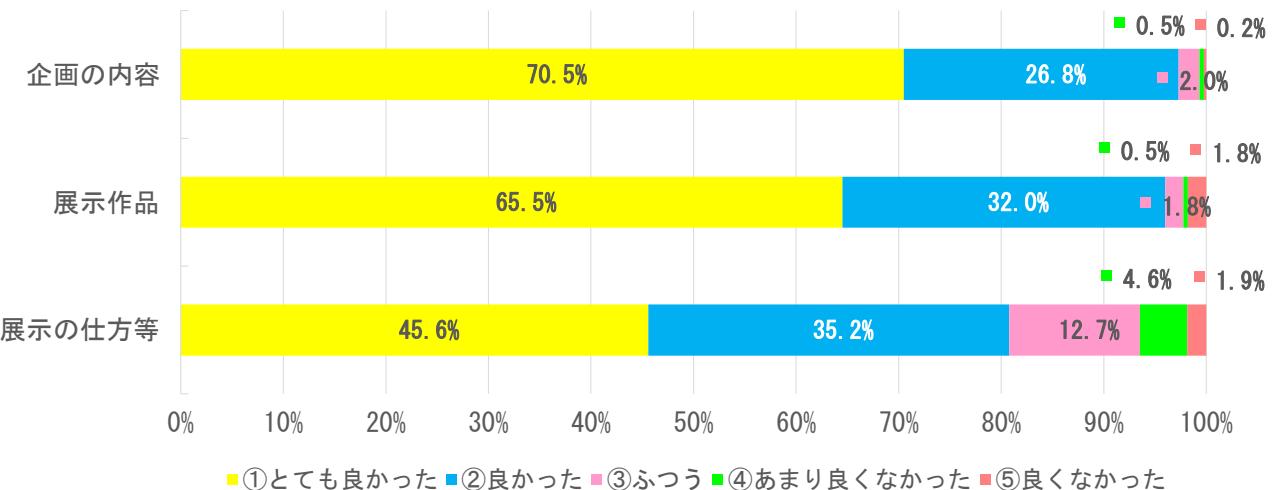
## 3. 来館回数（人数）



## 4. 展覧会情報の入手（人数）



## 5. 回答者の満足度



## 6. 主な意見・感想

- ◆日本の版画の歴史が全て見られるような時代ごとの展示には驚かされた。これまで何度も見た作品も多かったが、有名版画家の作品で見たことのなかった作品もあり興味深かった。
- ◆日本版画というと浮世絵をメインに展開されることが多いですが、印仏（版画のはじまり）から、各国の版画と合わせて歴史を辿ることで、各国の影響のあり方や「版画」というジャンルに対する見方が変わったように思います。
- ◆たまたま町田駅でチラシを見つけて、6才・5才の子供達といっしょにフラッと立ち寄ってみました。久しぶりの美術鑑賞timeに母は満足でした。絵画教室に通う息子は版画をさせてもらったこともあるので興味を持って見てくれた様子でした。子連れで駆け足でしか見られませんでしたが、ほど良いボリュームでとても楽しませていただきました。また訪れたいと思います。
- ◆町田市に住んでいながら初めて来ました。とても良い企画でまた来たいと思います。
- ◆時代を横断して一度にみられるのがよかったです。大きさ（「こんなに大きいのか」「小さくて細密」など）がわかるのが現物を見る良さだと改めてかんじました。
- ◆大胆なテーマと詳細な調査で、さすがだと思いました。ギャラリートークも楽しく、鑑賞が何倍も樂しくなりました。
- ◆学校作品やほかのさくひんやいろいろさくひんとかがきれいで、まだ二回しか行っていないので、たくさんいったりしたいです。ほかのさくひんがかざられるのを楽しみにしています。きょうのえはすごかつたりしたりしました。かざりかたやさくひん見えやすいようにライトが上にあるのをきずきました。さくひんにせつめいがかいあってあつたりして、とてもべんりだと思いました。

（以下は要望等の意見）

- ◇撮影シャッター音が気になりました。他館ではマスキングテープで音が出るところをふさぐようにしているところもあります。写真撮影OKの作品が多いのはうれしいのですが、今後ご検討いただけたら幸いです。
- ◇テーマも内容もとてもよいのですが、説明したいことが多すぎて、読む方に目がいって疲れてしましました。
- 大きいパネルがみやすかったので、まとめてもよいかもです。
- 説明の文字が小さい。会場は暗く、照明の関係か影になりやすいので、老眼には厳しい。